

平成 30 年度事業報告書

社会福祉法人湘南の風

目 次

はじめに・基本理念	1
経営の原則・法人の方針	2
法人主要課題	3～4
利用実績	5
部門別	
法人本部総務課	6～11
もやい	12～14
mai!えるしい	15～16
えいむ	17～19
葉山はばたき	20～21
支援センター風	22～26
ジャストサイズ	27～28
委員会	29～30

はじめに

平成 30 年度を終えて

法人の運営は、平成 25 年度より、①福祉サービスの質の向上、②経営の透明性、③経営基盤の強化と財政の健全化の三本の柱を方針に掲げ行ってまいりました。この柱は法人の運営・経営の根本を成すものであり、今後も変わることはありません。

平成 30 年度は、前年に実施した大規模な施設整備を受け、より質の高い利用者支援のため、また、より健全な法人運営を継続していくために、主要事業として mai！えるしい工賃向上計画の実現、葉山はばたき指定管理事業の検討、グループホームジャストサイズの安定的運営、指定取消事業等の再開準備、第三者評価受審事業、職員給与制度の見直しを掲げ、ほぼ予定どおり実施できたものと考えます。このうち職員給与制度の見直しは本来あるべき職務給の原則に則り適正な改定を実現しましたが、他事業は次年度以降も継続していくべきものとして捉えています。

財政面では、事業活動におけるサービス活動の収益が 6 億 5 千万円を超えるなど堅調に推移しました。

少子高齢化が右肩上がりの現代社会で、法人内においても利用者本人の高齢化及び重度化が顕著であり、待ったなしの対応が求められています。法人では、今後とも日々の活動内容や支援のあり方等、あらゆる側面から個々人の生活に着目し、本人の状態に則した質の高い支援を適切に提供できるよう必要な対応を行ってまいります。

令和元年 5 月

理事長 堀尾美幸

社会福祉法人湘南の風
基本理念

1. 利用者が尊厳を持って、自立できる地域社会の実現を目指します。
2. 基本的人権を守り、個人の尊厳を重視した支援を行います。
3. 地域とともに歩み、地域から信頼される法人を目指します。
4. 常に法令を遵守し、良質な福祉サービスを提供します。
5. 法人の経営基盤を強化し、経営の透明性を確保します。

経営の原則

当法人は、平成 30 年度事業を執行するに際し、法人定款第 3 条に規定する法人経営の原則を遵守します。

【定款】

(経営の原則)

第 3 条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

法人の方針

1. 福祉サービスの質の向上

- ①いわゆるサービス利用困難者に対するサービス提供の実現を目指します。
- ②個別支援計画の充実とサービス提供管理体制を構築します。
- ③障害者権利条約を守り、権利ある主体である個人の尊厳を重視した支援を行います。
- ④良質なサービス提供により利用者・家族・関係機関・地域社会との信頼関係を築きます。
- ⑤第三者委員によるサービスレベルの客観的な評価を受け、サービスの向上に努めます。
- ⑥人材育成と職員のモチベーションの向上のため、研修の充実を図ります。

2. 経営の透明性

- ①法令遵守と権利擁護の推進により、地域社会の信頼を得るべく努めます。
- ②第三者評価を積極的に受審し、法人経営の客観的な評価を受けます。
- ③事業運営の適正化を図るため、内部監査の充実を図ります。
- ④ホームページや広報誌等により、事業内容や財務諸表等の法人情報を公開します。

3. 経営基盤の強化と財政の健全化

- ①中期事業計画に基づき、効率的な事業遂行と予算執行を行います。
- ②法人の意思決定を行う中枢機関として本部機能を強化します。
- ③防災・減災体制を整備し、危機管理体制を強化します。
- ④各事業所における会計管理、予算執行管理を推進します。
- ⑤請求業務のチェック体制を強化し、正確で効率的な請求を行います。
- ⑥人材確保のため、年間を通じた職員採用計画を再構築します。

法人主要課題

1. mai! うれしい工賃向上計画の実現

①事業概要

利用者の高齢化等に対応するとともに、新規事業の開拓等により就労継続事業にふさわしい工賃の実現に努める。

②平成 30 年度の取組み

製菓製品の改良、販路の拡大、顧客ニーズに合わせた販売を行い、就労支援収支は改善し、期末手当等工賃支給額を高めたことにより平均工賃月額は昨年比約 10% 増となりました。

2. 葉山はばたき指定管理事業の検討

①事業概要

平成 31 年度末をもって期限を迎える指定管理について、その存続、在り方等の方針を決定する。

②平成 30 年度の取組み

令和 2 年度以降の指定管理事業について、葉山町と継続に向けた協議を行うとともに、事業の存続、在り方等については民間移管の可能性について協議しました。

3. グループホームジャストサイズの安定的運営

①事業概要

8 か所、利用定員定住 43 名、短期 4 名となったグループホームについて、これを安定して運営するとともに、従来利用が難しいとされてきた人の利用促進の方向性を構築する。

②平成 30 年度の取組み

安定的な運営への取組みとしては支援員の確保に向け定期的な採用活動を行い、支援員の確保に努めました。利用が難しいとされてきた人の利用促進の方向性の構築については困難要因の把握を行いました。

4. 指定取消事業等の再開準備

①事業概要

居宅介護、行動援護、移動支援の各事業について、再開の可否等方向性を決定する。

②平成 30 年度の取組み

人材確保及び経営的な側面から検討し、行動援護、移動支援の両事業について、年度中に再開することとし、これに向けた準備を始めました。

5. 第三者評価受審事業

①事業概要

実施事業のサービスの質の向上を図るため、今年度はえいむが第三者評価を受審する。

②平成 30 年度の取組み

えいむについて（公財）神奈川県介護福祉士会による「高齢・障害者分野第三者評価」を受審し、法人及び同会のホームページに評価結果を公表しました。

6. 職員給与制度の見直し

①事業概要

65 歳定年制を見据え、職員の処遇改善を目的として給与制度を見直す。

②平成 30 年度の取組み

職務給の原則（職員の給与は職務と責任に応ずるものでなくてはならない）に基づき、給料表の全面改訂（級制の導入）、主任職の位置付けの変更、昇給しない年齢の創設を反映した組織管理規程、給与規程、給与規程細則の一部改正を行いました。

利用実績

	定員	契約者数	年間稼働日数	延利用者数	稼働率	事業計画比較	
						延利用者数	達成率
もやい	40名	49名	244日	9,908名	101.5%	10,248名	96.7%
もやいデイサービス	20名	36名	245日	3,374名	68.9%	3,416名	98.8%
日中一時支援	5名	24名	244日	1,188名	97.4%	1,342名	88.5%
mai!えるしい	20名	21名	244日	4,272名	87.5%	4,414名	96.8%
えいむ	40名	45名	244日	8,877名	91.0%	8,577名	103.5%
葉山はばたき	20名	27名	244日	5,521名	113.1%	5,466名	101.0%
支援センター風 (特定相談)		257名	247日				
支援センター風 (障害児相談)		76名	247日				
支援センター風 (介護保険)		36名	247日				
支援センター風 (地域活動支援センター)	10名	19名	244日	1,150名	47.1%	1,220名	94.3%
ジャストサイズ	43名	43名	365日	12,445名	79.3%	13,650名	91.2%
ジャストサイズ (小坪・堀内)	4名	27名	365日	747名	51.2%	900名	83.0%

法人本部／総務課

1. 法令遵守

社会福祉法等の一部を改正する法律（平成 28 年法律第 21 号）の施行に伴い、特に理事会・評議員会の運営方法、必要書類等の整備を行いました。また、働き方改革関連法の一部である労働時間法制（労働基準法、労働安全衛生法、労働時間等設定改善法）の見直しに伴い、関連する規程を整備しました。

内部監査については、前年に引き続き請求事務の相互チェックと併せ、法人・事業所の意思決定の記録である稟議書・決裁書も対象とした確認作業に取り組みました。

平成 30 年 11 月に平成 25 年度以来となる神奈川県実地指導を受けました。4 項目について文書指摘を受け、理事会への報告を経て神奈川県へ改善報告を行いました。文書指摘の一つである mai! えるしいの適正な運営については改善の経過報告及び改善完了時の報告を行うこととなります。

2. 中期事業計画

中期事業計画について平成 30 年度実施事業の進捗管理を行いました。特にもやい・えいむの施設・設備整備事業に関しては計画年度よりも早く不具合が生じる設備もあり、今後の計画に見直しが必要となります。平成 31 年度理事会・評議員会において計画の修正を諮ります。

3. 連絡調整

法人運営に資するため法人内外の連絡、情報の収集・分析・発信及び理事会・評議員会、運営会議等諸会議の運営、第三者委員の事務局機能を担いました。

< 理事会開催実績 >

第 1 回理事会

開催日	平成 30 年 5 月 31 日（木）	出席者	理事 6 名	監事 1 名
議案第 1 号	平成 29 年度事業報告及び決算について			（可決）
議案第 2 号	平成 30 年度第 1 回補正予算（案）について			（同意）
議案第 3 号	定款の変更について			（同意）
議案第 4 号	社会福祉法人湘南の風中期事業計画の改定について			（同意）
議案第 5 号	基本財産の担保提供について			（同意）
議案第 6 号	平成 30 年度～平成 34 年度社会福祉法人湘南の風社会福祉充実計画について			（同意）
議案第 7 号	平成 30 年度定時評議員会の招集について			（可決）

第 2 回理事会

開催日	平成 30 年 6 月 22 日（金）	出席者	理事 6 名	監事 2 名
議案第 1 号	理事長の互選について			（可決）
議案第 2 号	相談役の設置に関する規程について			（可決）
議案第 3 号	定款施行細則の一部改正について			（可決）

第3回理事会

開催日	平成30年7月31日(火)	出席者	理事6名	監事1名
議案第1号	指名競争入札に係る業者の選定基準について			(可決)

第4回理事会

開催日	平成30年10月16日(火)	出席者	理事6名	監事1名
議案第1号	平成30年度法人の主要事業に係る推進方針について			(可決)
議案第2号	平成30年度第1回臨時評議員会の招集について			(可決)

第5回理事会

開催日	平成30年12月28日(金)	出席者	理事6名	監事1名
議案第1号	「支援センター風」指定一般相談支援事業(地域移行支援)運営規程等の一部改正について			(可決)
議案第2号	神奈川県の実地指導に係る対応について			(可決)

第6回理事会

開催日	平成31年2月18日(月)	出席者	理事6名	監事1名
議案第1号	施設長の選任について			(可決)

第7回理事会

開催日	平成31年3月8日(金)	出席者	理事6名	監事2名
議案第1号	平成31年度事業計画(案)について			(同意)
議案第2号	平成31年度予算(案)について			(同意)
議案第3号	平成30年度第2回補正予算(案)について			(同意)
議案第4号	平成30年度第2回臨時評議員会の招集について			(可決)
議案第5号	実地指導の結果に係る改善について			(可決)
議案第6号	平成31年度給食業務委託契約について			(可決)
議案第7号	経理規程の一部改正について			(可決)
議案第8号	法人組織管理規程の一部改正について			(可決)
議案第9号	就業規則の一部改正について			(可決)
議案第10号	有期契約職員就業規則の一部改正について			(可決)
議案第11号	給与規程の一部改正について			(可決)

<評議員会開催実績>

定時評議員会

開催日	平成 30 年 6 月 22 日 (金)	出席者	評議員 8 名
報 告	平成 29 年度事業報告		
議案第 1 号	平成 29 年度計算書類及び財産目録の承認について		(可決)
議案第 2 号	平成 30 年度第 1 回補正予算 (案) について		(可決)
議案第 3 号	定款の変更について		(可決)
議案第 4 号	社会福祉法人湘南の風中期事業計画の改定について		(可決)
議案第 5 号	基本財産の担保提供について		(可決)
議案第 6 号	平成 30 年度～平成 34 年度社会福祉法人湘南の風社会福祉充実計画について		(可決)

第 1 回臨時評議員会

開催日	平成 30 年 11 月 20 日 (火)	出席者	評議員 8 名
議案第 1 号	平成 30 年度法人の主要事業に係る推進方針について		(可決)

第 2 回臨時評議員会

開催日	平成 31 年 3 月 22 日 (木)	出席者	評議員 7 名
議案第 1 号	平成 31 年度事業計画 (案) について		(可決)
議案第 2 号	平成 31 年度予算 (案) について		(可決)
議案第 3 号	平成 30 年度第 2 回補正予算 (案) について		(可決)

<第三者委員施設訪問実績>

訪問先	日程	合計
もやい	4/18、7/6、11/5	3回
もやいデイサービス	4/18、7/6、11/5	3回
日中一時支援	11/5	1回
mai!えるしい	7/13、10/19、12/5	3回
えいむ	6/19、10/12、1/15	3回
葉山はばたき	5/9、9/5、11/20	3回
支援センター風	4/11、10/19	2回
ジャストサイズ	5/14、6/27、9/10、11/5	4回

4. 人事

①採用

平成 31 年度新卒採用者は 3 名となりました。新卒者確保の採用活動として法人単独の説明会を全 6 回実施し、参加者は 6 名となりました。説明会参加から採用試験の受験に至ったのは 1 名のみとなり、実施内容、説明会から採用試験までのスケジュール等に更なる見直しが必要です。有期契約職員の採用については募集チラシの作成及び逗子・葉山地域へのポスティングを行い法人全体で 18 名を採用しました。

②研修

集合研修

研修名	実施日	講師又は依頼先	内容	対象者	参加者
新人研修	4/2、3	法人管理者	法人の理解、障がいの理解等について	新入職員	4名
介護技術研修	4/10	神奈川県 介護福祉士会	介護技術の基礎について	新入職員	23名
接遇研修	6/11、13	川原経営 総合センター	福祉における接遇について	新入職員	26名
階層別研修①	7/24、9/25 11/27、3/13	法人管理者	各事業所の事例検討	2年目以上職員	12名
階層別研修②	7/12、10/12 11/2、12/20	東京学芸大学菅野氏	知的障がい者支援に関して専門的な理論等を習得し事業所における職員指導や事業運営を学ぶ。	4年目以上職員	17名
階層別研修③	9/12、11/12 3/12	峯尾武巳氏 (県立保健福祉大学元教授)	事例検討を通して課題の発見や支援方法の教示、それらを組織的に実践するためのチーム作り等について学ぶ。	主査・サビ管	13名
感染症対策研修	9/7	鎌倉保健福祉事務所	感染症とその具体的な対応策について	常勤職員	21名
虐待防止研修	10/30	和泉短期大学鈴木氏	虐待防止と意思決定支援について	全職員	116名
コンプライアンス研修	11/15	日本コンプライアンス 推進協会	コンプライアンスの意義とコミュニケーションの重要性について	常勤職員	54名
安全衛生研修	3/14	労働者健康福祉機構	メンタルヘルスケアについて	常勤職員	34名
宿泊研修	1/28、29	理事長、相談役	正しいものの見方・考え方の修得、組織統治の基本の修得法令遵守意識の涵養について法人規程を用いて修得する。	2年目から	10名
中間事業報告会	9/22	各事業所職員	平成30年度上半期の事業報告	常勤職員	64名
事業報告会	3/30	各委員会委員他	平成30年度委員会報告・自主県外視察研修報告	常勤職員	65名

派遣研修

研修名	実施日	主催	内容	対象者	参加者
新任福祉施設等合同研修	4/18	神奈川県 社会福祉協議会	社会福祉の理念、職業倫理や法人理念の理解を踏まえ、従事者の基本姿勢や新任職員の役割を学ぶ。	新入職員	2名
キャリアパス対応生涯研修課程（初任者編）	9/13、14	神奈川県 社会福祉協議会	社会福祉の基本理念、職業倫理を学び、自身の将来像を描き、そこに到達するために何が必要かを考える契機とする。	新入職員	1名
キャリアパス対応生涯研修課程（中堅職員編）	8/22、23 8/29、30	神奈川県 社会福祉協議会	職場で期待される役割について理解を深めるとともに、職務遂行に必要な知識及び技術を習得し、資質向上及び職場定着を図る。	中堅職員	8名
キャリアパス対応生涯研修課程（管理職員編）	6/7、8	神奈川県 社会福祉協議会	管理職の役割を理解し、キャリアアップの方向性及び組織の維持管理、後継人材の育成に必要な知識及び技術の向上を図る。	管理者	3名
プレマネージャー研修	2/28	神奈川県 社会福祉協議会	管理職になるにあたってマネジメントの本質を理解するとともに、求められる知識やスキルの全体像を把握する。	主査	3名
施設運営管理研修	2/15	神奈川県 社会福祉協議会	社会福祉施設の適正な運営に必要な基礎的な役割や知識を学び、社会福祉施設のマネジメントを深める。	主査	4名
キャリアパス対応生涯研修課程（チームリーダー編）	7/4、9 8/27、9/3	神奈川県 社会福祉協議会	指導的職員の役割・使命を理解し、より良いチーム作りに必要な考え方や技法を会得し、実践に反映する方法を学ぶ。	中堅職員	8名
全国社会福祉法人経営者大会	9/20、21	全国社会福祉法人 経営者協議会	社会福祉法人が、地域に目を向けてその社会的責任を果たしていくために何をなすべきかについて研究協議する。	管理者	1名
全国経営協「経営塾」	7/24、25 10/1、2 11/28、29	全国社会福祉法人 経営者協議会	社会福祉法人が置かれている経営環境、自法人及び自身の役割を理解し、自法人の経営課題を解決するためのスキルを習得する。	管理者	1名
障害福祉事業経営セミナー	2/12	全国社会福祉法人 経営者協議会	全国経営協の活動動向と地域共生社会における社会福祉法人の役割等を学ぶ。	管理者	1名

視察研修

研修名	実施日	視察先	目的	対象者	参加者
自主県外視察研修	1/31、2/1	国立のぞみの園 秩父学園	自主的に視察を行うことにより、障がい者支援の先進例を学習し、職員の自立性向上を図る。	常勤職員	5名
	3/14、15	社福）嶋福社会 社福）石巻祥心会 社福）一步一步福社会			5名

③職員育成

職員については、年度当初に自己申告書を作成し、職員育成指針に基づく目標設定等を行いました。下半期には目標の振り返り、自己評価、管理者の評価・面談を行いました。有期契約職員については、新年度に向けた契約更新の意思確認も含め、年末から年始にかけて意向調査を実施しました。

④給与

給与、賞与、退職金等の計算、社会保険加入手続き等を行いました。

⑤その他

国家資格取得に係る受験費用を法人から支給する制度を設けました。国家資格取得者への報奨については対象者がいませんでした。

⑥福利厚生

職員厚生団体への支援・補助を行いました。

5. 広報

平成30年度5月に内容を更新した法人パンフレットを発行しました。情報開示については、法人ホームページでの定款、財務諸表の公開をはじめ、全国社会福祉法人経営者協議会等の関連団体の専用サイトなどを活用し、経営の透明性を担保する情報開示に努めました。

法人会報については年3回発行しました。

6. 防災

水防法及び土砂災害防止法の改正を受け、防災マニュアルの全面的な見直しを行い、内容を更新しました。緊急連絡網については年度当初及び入退職の度に更新し、有事を想定した緊急連絡テストを実施しました。

7. 収入

障害福祉サービス等事業収入は通所利用者数の増加及びジャストサイズ小坪第1、第2の開所による利用受入数増加により大幅に増収となりました。

8. 運営管理出納事務

毎月行われる運営会議にて各施設の稼働率・資金収支の推移を確認し、問題点の早期発見及び問題解決の話し合いを随時行いました。

9. 委託業務出納事務

計画のとおり執行しました。

10. 施設整備出納事務

もやいにおいて玄関改修工事(400万円)、3階バルコニー防水工事(140万円)を行いました。また、もやい施設のボイラーが経年劣化により故障した為、更新工事(500万円)を行いました。えいむ施設において和式トイレから洋式トイレへの仕様変更工事(130万円)を行いました。

もやい（生活介護／日中一時支援）

1. 支援事業

(1) もやい

- ①男女人数 男性 27 名 女性 22 名
- ②年齢構成 19 歳～58 歳（平均年齢 38.6 歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	3	14	8	24	49

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	25	重複障がい（知的、身体）	22
身体障がい	1	重複障がい（身体、精神）	1
		合計	49

⑤入退所の状況

- 新規利用者 2 名
- 退所者 0 名

⑥支援の内容

月に一度の職員ミーティングにて施設長、主査及び常勤職員をスーパーバイザーとし、知的障がい者支援の基本から専門的な理論等について学ぶ取組みを行いました。具体的な手法については、主査、サービス管理責任者等が現場で直接的な指導を実施しました。

利用者の高齢化、障がいの重度化に伴い、時間割や活動内容等の見直しを行いました。

また、理学療法士を配置し、機能訓練を行う職員に対し、専門的な知見から助言指導を行う体制を整備しました。

(2) もやいデイサービス

- ①男女人数 男性 22 名 女性 14 名
- ②年齢構成 43 歳～87 歳（平均年齢 66.3 歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	8	11	8	5	4	36

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	3	重複障がい（知的、精神）	1
身体障がい	28	重複障がい（身体、精神）	2
精神障がい	2	合計	36

⑤入退所の状況

- 新規利用者 4 名
- 退所者 0 名

⑥支援の内容

活動として室内での娯楽、体操、外出等を継続して提供しました。新たな取組みは実施できていません。次年度においては利用者の自立を促進し興味関心のもてる活動の提供を実施します。年間の平均利用者数は 13.7 名で、目標としていた利用率を下回った結果でした。

引き続き利用者の皆様のニーズの把握及び新規利用者の獲得のための取組みを行います。

(3) 日中一時支援

- ①男女人数 男児9名 女児6名
- ②年齢構成 8歳～17歳（平均年齢12.0歳）
- ③基本報酬区分（8歳～17歳）

	区分1	区分2	区分3	計
人数	1	4	10	15

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	13	重複障がい（知的、身体）	1
身体障がい	1	合計	15

⑤入退所の状況

- 新規利用者 0名
- 退所者 0名

⑥支援の内容

利用する児童の社会適応の観点から一人ひとりの障がい特性に応じた個別学習を実施しました。利用者の自発性が向上するなど効果が見られてきています。

支援員の体制について、もやいデイサービス職員と兼務の体制をとり、柔軟な職員配置を行いました。また、ボランティアの協力を得て児童一人ひとりに目が届くよう留意しました。

学校の長期休暇（夏季、冬季）時にも概ね保護者の要望を受け入れることができました。

通常の利用日においては、他サービスの併用等をする児童がいることから平均利用数が減少しています。

2. 施設管理事業

トイレの清掃について、週に3日業者委託したことにより職員の業務負担が減り、記録の記入や翌日の準備等にあてる等業務の効率化につながりました。

3. 施設整備事業

玄関ホール風除室内部改修工事と3階バルコニー防水工事を実施しました。また、温水用ボイラーが経年劣化による故障があり、予備費を使用し緊急の更新工事を実施しました。

4. 研修事業

実施日	内容	参加者
6/12、6/13	平成30年度三浦しらとり公開講座「自閉症の特性と構造化」	半田
6/24	コミュニケーション支援について	佐々木
6/29	湘南東部・横三地区支援職員研究会 神奈川県立こども医療センター重症心身障害児施設見学	谷崎
7/9	平成30年度きらり公開専門研修 明日からできる応用行動分析を活用した発達支援と問題解決	藤木
6/6～7/19	こころのバリアフリー講座～発達障害～（全7回）	工藤、菅原
8/1	神奈川県立武山養護学校 夏季公開講座	山下

8/29	障害福祉施設等防犯研修会	斗舛
9/21	意思決定支援研修	山下
11/13, 11/14	神奈川県強度行動障害支援者養成研修（基礎）	斗舛
11/16	意思決定支援研修	山下
12/16	日本発達障害支援システム学会研究セミナー	小林、志村 斗舛、岡本 佐々木 半田、大木 石黒、谷崎 山下、藤木
12/17	社会福祉法人・施設職員災害対応研修会	斗舛
3/22	逗子市基幹相談支援センター研修	永井

- ・内部研修として月に1回常勤職員と非常勤職員（支援員）が一同に会し、支援の基礎から応用を学ぶ機会を設定しました。

5. 防災事業

- ①訓練 地震津波訓練を2回、火災訓練（通報、消火、避難）を1回実施しました。
- ②備品 使用期限切れの非常食の入替えを実施しました。

6. 総括

前年度からの課題として支援事業において職員の理論に基づく実践の力量を上げることが挙げられます。課題への対応の一つとして前年に引き続き内部研修を月次で取り組み、知的障がいの基礎的な理解をはじめ、具体的な支援に関する方法論等を学びました。少しずつですが実践へ応用することができてきています。また、実践の報告として日本発達障害支援システム学会において研究発表を行い、客観的な評価を得ることができました。

施設整備事業においては、建物の維持管理について、中期事業計画に基づき修繕を実施しました。次年度以降においても電気設備や内装の更新工事をはじめ複数の修繕が必要な箇所があります。計画的な修繕を前提に、突発的な状況にも対応できるよう取り組んでいきます。

mai!えるしい（就労継続支援B型）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 15 名 女性 5 名
②年齢構成 23 歳～61 歳（平均年齢 40.8 歳）
③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	4	0	5	10	1	1	0	21

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	16	重複障がい（知的、精神）	1
重複障がい（知的、身体）	2	精神障がい	2
		合計	21

⑤入退所の状況

- 新規利用者 1 名（週 2 回利用）
退所者 0 名

⑥支援の内容

事業計画に基づく製菓製品の改善、販路の拡大、顧客ニーズに合わせた販売を行い、mai!えるしい工房の就労支援収支は改善しましたが、喫茶かあむの売り上げは体育館のイベントスケジュールが例年と異なり、対応策を見いだせず減収となりました。えるしい、かあむ合算の収益は昨年より上げることができ、期末手当等工賃支給額を高めたことにより平均工賃月額は昨年比約 10%増となりました。

地域生活支援センターと連携し、社会生活技能訓練機会を設けました。

作業の選択肢の増加や季節による繁忙、閑散に対応した受注作業の獲得として新規に 3 社からの受注作業を受託しました。内、1 社は継続的な取引に繋がり 1 社は常用作業構築の準備中です。

2. 施設管理事業

利用者工賃の向上、就労支援会計の適正化及び期末手当の支給を 2 回行いました。結果、平均工賃月額 11,300 円（昨年 10,100 円）となりました。高齢化、身体機能の低下が見られたと利用検討会議を開催しました。相談支援、地域生活支援センターと連携し、週 2 回ではありますが新規利用者を獲得しました。

平成 30 年 11 月に神奈川県の実地指導を受け、喫茶かあむについて指定障害福祉サービス事業所として法令の基づく必要な手続きを行うよう指摘を受け、改善に着手しました。事業の継続には「従たる事業所」への位置づけが思料されましたが、かあむの現状のソフト面、ハード面を鑑み閉鎖することとしました。かあむ利用者、担当職員に説明を行い、今後の支援の場に円滑につながるような個別の調整を開始しています。

3. 施設整備事業

昨年度計画した mai!えるしい工房及び喫茶かあむの厨房機器の入替えを行いました。屋根雨漏り修繕、窓ガラスの修繕を行いました。

4. 研修事業

実施日	内 容	参加者
9 / 7	神奈川県知的障害者福祉協会地区研究会	熊岡
11/27	障がいのある人の地域生活支援（障がいと司法）	熊岡
1 / 30	社会就労センター協議会人材育成研修会	龍村
2 / 16	第 20 回全国障害者生活支援研究セミナー	龍村、熊岡
2 / 18	食品衛生責任者講習	大房
2 / 26	障害者事業所基本研修会（食品衛生法一部改正について）	大房

5. 防災事業

- ①支援センター風と合同で、火災避難訓練 1 回、津波避難訓練 1 回を行いました。
- ②防災備品の点検を行いました。

6. 工賃支払状況

単位：円

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
金額	154,120	165,280	158,480	155,760	139,280	485,200	166,760
人数	20	20	20	20	20	20	20
平均	7,706	8,264	7,924	7,788	6,964	24,260	8,338
	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	月平均	合計
金額	169,120	140,960	127,080	134,600	742,000	228,220	2,738,640
人数	20	20	20	20	21		241
平均	8,456	7,048	6,354	6,730	35,333		11,363

7. 総括

平成 30 年度は稼働率 90%（利用者 1 名増）の目標に対し、実績では稼働率 87.5%達成率 96.8%となりました。新規利用者 1 名の獲得はしましたが、獲得時期は 3 月、利用頻度は週 2 日ですので飛躍的な稼働率向上にはつながりませんでした（昨年比 1.5%増）。さらに平成 31 年 4 月から 1 名の利用者が一般就労に繋がったことを受け、現契約者の利用頻度を高める取組みと新規利用についても継続して取組みます。

昨年度、神奈川県の実地指導を経て喫茶部門かあむを閉鎖することとしました。法令を遵守した運営体制については常にチェックの目を持ち、行っていきます。閉鎖に伴うソフト面として利用者の支援を見直し適切な資源に結び付くことができるよう個別の支援を行います。ハード面としては逗子市との協議のもと適切な返却手続きを行います。また、これまでご愛顧いただいたお客様へも誠意ある対応を行います。

昨年度より支給工賃の平均月額とサービス報酬が直結する報酬改定が行われました。工賃の向上にはこれまで以上に努める必要があります。昨年に引き続き就労支援会計は改善し、期末手当等の支給を経て平均工賃 1 万 1 千円となりました。しかし、県内の同事業の平均工賃が 1 万 5 千円であるため、さらなる工賃向上に努めてまいります。

えいむ（生活介護）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 41 名 女性 4 名
②年齢構成 19 歳～49 歳（平均年齢 34.5 歳）
③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	5	18	12	10	45

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	43	重複障がい（知的、精神）	1
重複障がい（知的、身体）	1	合計	45

⑤入退所の状況

- 新規利用者 1 名
退所者 1 名（市外就労継続支援 B 型事業所への移行）

⑥支援の内容

PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）を用いたコミュニケーション支援を中心に、本人の能力に応じた個別課題への支援を行いました。利用者個々の重点支援領域に基づき、適宜アセスメントを行い、個々のレベルに応じた課題に取り組みました。

利用者の高齢化、重度化に応じた活動プログラムの再編を目的として年間を通じて提供している既存の活動の目的や参加状況等について検証を行いました。また、障がい特性に応じた支援環境を整備するため、活動レイアウトの変更を適宜、実施しました。

活動提供については銅線作業以外に資源回収、軽易な受注作業及び苗木栽培等の下請作業を中心に提供しました。新規作業も受注し、利用者の方の活動の幅の拡大に繋がりました。

2. 施設管理事業

①第三者評価の受審

- ・評価機関：公益社団法人神奈川県介護福祉士会
- ・訪問調査：平成 30 年 12 月 5 日（水）
- ・評価結果の発効：平成 31 年 2 月 12 日（月）

②大規模修繕に向けて、外壁塗装及び屋上防水塗装について業者による診断を受けました。

③ 5 S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動に取り組み、施設内外の不用品の廃棄等、環境整備を行いました。

3. 施設整備事業

- ①障がい特性に配慮し、和式便所を洋式便所に改修しました。
②各階ドア及び壁等、不具合箇所の修繕を行いました。

4. 研修事業（派遣研修以外に所内研修を計8回実施しました。）

実施日	内 容	参加者
4/6	平成30年度指定障害福祉サービス等事業者説明会	萩原
5/8	安全衛生推進者・衛生推進者養成講座	橘
6/7、8	平成30年度神奈川県強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】	安達
6/12、6/13	三浦しらとり園公開講座	岩戸
6/15	平成30年度第1回やまゆり知的障害児者サポート協会研修会	岩戸
6/27	新任職員人権研修	萩原、福田、川田
6/24	発達支援研修会	安達、友野
6/29	第3回障害者グループホーム職員研修	館山
6/30	2018年度障害者事業所研修会	萩原
7/3	逗子市こども発達支援センタークローバー見学	館山、友野
7/2、3	平成30年度全国知的障害関係施設長等会議	萩原
7/5	社会福祉法人三篠会 障がい者支援施設みずさわ 研修講師	萩原、安達
7/12、13	第49回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会	萩原
7/19	平成30年度神奈川県強度行動障害対策研修	平柳
7/23	平成30年度神奈川LD協会主催研修会	川田
7/25	新任職員人権研修	平柳
7/28	第20回自閉症療育者のためのトレーニングセミナー	岩戸
8/3	平成30年度神奈川LD協会主催研修	福田
8/4	PECS レベル1ワークショップ	岩戸
8/9、20～22	平成30年度神奈川LD協会主催研修会	小泉、平柳、伊藤、友野
8/24、10/4、5	平成30年度サービス管理責任者等研修	山崎
8/24	平成30年度神奈川LD協会主催研修会	守谷
8/29	第1回事務研修会	萩原
9/13、14	平成30年度神奈川県強度行動障害支援者養成研修【実践研修】	安達
9/20、21	第37回全国社会福祉法人経営者大会	萩原
9/29	第3回4法人ジョイントセミナー	安達
11/8	神奈川県オンブズマンネットワーク交流研修会	萩原、平柳、川田
11/22	平成30年度非正規職員向け研修	川田
11/27	かながわ福祉サービス振興会研修会	平柳
11/29	平成30年度日中活動支援部会全国大会	橘
7/24、25、10/1 10/2、11/28、29	平成30年度社会福祉法人経営塾	萩原
12/7	平成30年度神奈川県知的障害福祉協会施設長会研修会	萩原
12/12	三浦しらとり園公開講座	岩戸
12/17	第36回神奈川県障害福祉職員実践報告会	萩原、橘、黒川
1/17	支援スタッフ部会研修会	館山
1/18	強度行動障害支援者養成研修<基礎研修>フォローアップ研修	岩戸
1/18	国立のぞみの園主催研修会	萩原
1/25	平成30年度神奈川県発達障害者支援センター支援者向け研修	安達
2/4	平成30年度経営協セミナー(後期)	萩原
2/15	平成30年度施設運営管理研修	橘
2/19	三浦しらとり園心理公開講座	館山
2/20	障害者権利条約講演会	萩原
2/26	平成30年度非正規職員向け研修(応用編)	平柳
2/26	平成30年度人権委員会視察研修「横浜家庭学園」	館山
3/6	平成30年度トップセミナー	萩原
3/14	平成30年度経営者部会・施設部会合同研修会	萩原
3/19	平成30年度プレ・リーダー研修	山崎
3/28	平成30年度横浜知的障害関連施設協議会研修	館山

5. 防災事業

- ①訓練 火災を想定した総合訓練(消火・通報・避難)を年2回実施しました。
- ②備品 非常食を含めた防災備品の入替えを行うと共に災害対策として館内の窓ガラスに飛散防止フィルムを貼付しました。

6. 総括

支援事業では、活動再編について年間を通じて検証しました。今後、利用者の高齢化や重度化に伴う身体機能維持を目的とした運動プログラムの提供や若年層の利用者の方への作業プログラムの拡充を含め、より利用者個々のニーズに応じた活動をアセスメントしながら支援の充実化を図ります。

研修事業では各職員の支援力の向上を目的として非常勤職員を含め、多くの研修会に職員を派遣しました。特に「第36回神奈川県障害福祉施設職員実践報告会」では日々の支援実践を報告することで客観的な評価を得る機会に繋がりました。

次年度以降も継続して障がい特性に応じた支援環境の整備を含め、支援の質の向上を図るべく事業運営を行います。

葉山はばたき（生活介護）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 11 名 女性 16 名
 ②年齢構成 20 歳～75 歳（平均年齢 42.7 歳）
 ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	2	4	10	7	4	27

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	14	重複障がい（知的、精神）	2
重複障がい（知的、身体）	11	合計	27

⑤入退所の状況

- 新規利用者 0 名
 退所者 2 名

⑥支援の内容

利用者の高齢化、重度化に応じた活動提供と支援方法の見直しを行い、機能維持と意欲向上を目指した日常的な取組みを導入しました。また、障がい特性と活動内容に応じた環境整備を図り、作業活動に集中して取り組める環境づくりと学習・余暇領域に取り組める活動スペースの確保を行いました。これにより、従来の作業を中心とする活動提供から利用者のライフステージに応じた学習・余暇領域の活動提供を拡げることにも繋がりました。また、利用者の余暇の充実を目的として、全利用者を対象とした外食イベントを実施しました。

2. 施設管理事業

「葉山町立の障害者支援施設葉山はばたきの管理に関する協定書」に基づき、葉山町への定期的な業務報告並びに施設管理を行いました。

3. 施設整備事業

事務室内の書庫の入れ替えを行い、請求事務並びに施設管理に係る書類を一元管理すると共に、書庫の施錠による情報管理の強化を図りました。

4. 研修事業

実施日	内 容	参加者
6 / 4	支援スタッフ部会「福祉のお仕事は、”感情労働”です！」	佐々木
6 / 15	平成 30 年度 第 1 回やまゆり知的障害児者生活サポート協会主催研修会	佐々木
6 / 20、27	地域リハビリテーション研修「知的障害の方の身体機能低下への対応」	齊藤
6 / 29	支援スタッフ部会 平成 30 年度第 1 回地区会事業所見学会	佐々木
7 / 3～5	社会福祉法人経営者研修会（経営管理コース）	松倉
7 / 9	平成 30 年度きらり公開専門研修「応用行動分析の支援への活用」	佐々木
7 / 11	高齢知的障害者の理解と支援について	松島
7 / 13	普通救命講習 I	佐々木
7 / 19	発達障害の理解～自閉症スペクトラムを中心として～	古賀

7/20	「アセスメントから始める自閉症支援」	佐々木
7/26	地域で育む成年後見制度の利用促進にむけて	松島
8/1	武山養護学校夏季公開研修講座「エビデンスに基づいた支援」	原田
8/2、3	「行動の問題」の見方と対応の実際	齊藤
8/9、10	第41回てんかん基礎講座への職員派遣について	古賀
8/29	平成30年度「障害福祉施設等防犯研修会」	佐々木
9/4	障害者の人権を守るために～ともに生きる社会の実現を目指して～	古賀
9/5	障がい福祉サービス事業所における感染症対策。	佐々木
9/7	支援スタッフ部会 平成30年度第2回地区会事業所見学会	佐々木
9/10	平成30年度神奈川県強度行動障害対策研修アセスメント初級研修	齊藤
9/21	支援スタッフ部会「対人援助を考える～認知症のある方への対応と工夫～」	佐々木
10/4、5	平成30年度就業支援基礎研修	松島
10/17	個人情報保護法研修会	佐々木
10/25	あおぞらパーティー意見発表会	古賀
11/8	神奈川県オンブズマンネットワーク交流研修会	古賀
11/12	やまゆり知的障害児者生活サポート協会「実践を通して知る感じる考える」	原田
11/16	意思決定支援とは何か	齊藤
11/27、28	防火管理者講習	松島
12/17	第36回神奈川県障害福祉施設職員実践報告会	佐々木 松島
1/14	2018年度実習指導者フォローアップ研修	佐々木
1/18	障害者の福祉的就労と日中活動サービス	原田
1/23、24	防火管理者講習	佐々木
2/25	平成30年度神奈川県強度行動障害対策研修アセスメント体験研修	齊藤

※上記派遣研修の他、5月より月に一回、日々の業務や支援に関わるテーマを設定し、事業所内研修(計11回)を実施しました。また、日々の実践を検証する機会として、「第36回神奈川県障害福祉施設職員実践報告会」に参加し、実践報告を行いました。

5. 防災事業

- ①訓練 火災を想定した総合訓練(2回)及び津波を想定した避難訓練(1回)を実施した他、土砂災害を想定した講習会と緊急時の連絡訓練を実施しました。
- ②備品 災害用非常食の入替えを行いました。

6. 総括

支援事業では利用者の高齢化・重度化に応じた支援として、機能維持と意欲向上に着目し、持続可能な取組みとなるよう日常の生活動作や役割を持つことを通じた運動機会の提供や、できることを継続し、自信とやりがいを得られる機会を提供し、一定の成果を得ることができました。また、学習・余暇領域の支援を拡げていくための環境整備を図り、職員と個別に実践する取組みでは、利用者の楽しみや達成感に繋がる活動提供の一步として成果を得ることができました。

施設整備事業では、事務室内の書庫の入れ替えを行い、個人情報を含む重要書類の管理強化を図ると共に、一元管理による業務の効率化にも寄与することができました。

本年度も日々の実践を検証する機会として、神奈川県障害福祉施設職員実践報告会に参加し、支援における客観的な評価を得ることができました。次年度も引き続き、利用者の障がい特性や個々のライフステージに応じた生涯発達支援の実践に取り組んで参ります。

支援センター風：逗子市委託相談支援及び葉山町委託相談支援事業（逗子市・葉山町委託）

1. 支援事業

①相談件数

逗子市：10,745 件（実人数 287 人）昨年比+2631 件 -4 人

葉山町：3,221 件（実人数 124 人）昨年比+120 件 +1 人

両地域合わせて相談員員数 10 名 常勤換算 6.5 人 昨年比+0.1 人

相談員 1 人当たりの月の平均相談延件数 139 件 昨年比+23 件

②活動の状況

訪問、同行、電話相談、個別支援会議、関係機関とのサービス調整及びサービス等利用計画に係る事務を行いました。

2. 総括

相談実人数は増加し、相談件数も増加しています。一人当たりの相談件数も昨年度より増加しています。利用実人数の総計に大きな変化がない中で相談件数が増加している背景として、利用者 1 件に係る相談件数が多くなっていること、終結ケースと新規ケースの割合のバランスが取れていたこと、両親を亡くし他機関との連携を要するケースが起きたことなどが考えられます。相談員 1 人当たりの担当件数は 55 件を上回らないよう努めています。

ケースワークの特徴としては利用者の高齢化により介護分野の技術や知識を要するケースが増えたこと、高齢化に伴い親への支援が増えたこと、手帳の取得が困難ではあるが支援は必要な児童のケース、サービスとのマッチングがかなわないケースも散見されています。一方、長年の引きこもりを経て就労支援が始まったケースや地域の見守りサポーターを活用し、学校からの登下校が可能になったケースなど委託事業ならではの成功事例もありました。

その他、虐待に係る相談、成年後見利用、両親他界、依存症併発、触法ケースも数件あることから今後さらに行政機関や専門機関との緊密な連携に努めます。

支援センター風：指定計画相談支援及び指定障害児相談支援事業（逗子市指定）

1. 支援事業

①計画作成件数

逗子市民：539 件 昨年比+179 件 葉山町民：153 件 昨年比+12 件

②活動の状況

利用者 1 名につき、アセスメント、サービス等利用計画案の作成、個別支援会議の開催、サービス等利用計画作成及びモニタリング作成がサイクルで行われており、これらに付随して面接、訪問、連絡調整及び申請等援助を実施しました。

2. 総括

平成 29 年度の計画作成件数に比べ逗子葉山共に増加となっています。サービス等利用計画作成後のモニタリング頻度を重視する制度となり、これに対応した取組みによるものと考えられます。逗子市葉山町との差は利用者数の違いと各行政が求めるモニタリング頻度の違い、制度改正に基づく移行率の差と考えられ、徐々に利用者数に応じた伸び率となると予想されます。

さらに、平成 31 年度より経過的サービス計画給付費が終了となり、計画作成 1 件当たりの給付費が下がることから、適切な加算の確実な取得、モニタリング機会の確実な提供が求められます。

支援センター風：基幹相談支援センター事業（逗子市委託）

1. 支援事業

①総合・専門的な相談支援

市内の支援機関からの要請によって困難事例へのスーパーバイズや多機関連携会議、講師派遣、勉強会開催の相談を行いました。

②地域の相談支援体制強化の取組み

市内の相談支援機関との連絡会の開催（12回）、事例検討会（8回）を行いました。また、高齢、児童、保健、医療、教育、就労、司法、権利擁護、地域福祉分野などの他分野連携の機会（3回）を持ちました。

③その他、虐待防止と意思決定支援、成年後見制度の利用促進、地域生活定着促進の検討会などの研修や事例検討、意見交換会を開催しました。

2. 総括

本年度重点課題である総合・専門的な相談支援については地域の困難ケース数件に対し専門機関の招へいや連携会議を開催しました。今後は基幹相談支援センターが地域の相談支援機関に出向き、アウトリーチの視点で地域の相談支援の底上げを行います。自立支援会議とも連絡調整を行い、地域生活拠点等設置にむけて検討を行います。

支援センター風：逗子市地域活動支援センター（逗子市委託）

1. 支援事業

逗子市在住の各種障害者手帳保持者を対象として学習、作業活動等を提供する事業です。また、制度のはざま事業として障害者手帳を所持していない方の受入れも行います。

①利用者の状況 知的障害 12名 精神障害 5名 手帳なし 4名 合計 21名

（内、発達障害診断あり 1名 高次脳機能障害 1名）

②年齢構成 21歳～62歳

③入退所の状況

新規利用者 0名

退所者 1名

2. 総括

昨年に引き続き担当主査と非常勤支援員による体制を見直し、複数の兼務職員を配置しました。社会的技能獲得メニューを加え、この事業を利用した後を想定した支援を行いました。グループホームの利用と就労につながった方、就労継続B型事業所につながった方、生活介護事業所につながった方もおり、はざま事業を入りに継続的な支援に結び付けることができました。相談支援との密な連携と個別支援に重きを置いた結果と考えます。

これからも幅広い対象者の受け入れを行い、この地域に不足している生活訓練にも対応した事業を展開します。

支援センター風：逗子市自立支援会議運営事業（逗子市委託）

1. 支援事業

全体会議	運営会議	専門会議（権利擁護）	専門会議（就労支援）	定例会議
7/17、3/22	6/19、2/20	7/4、10/24、1/25	7/4、12/11	毎月第3水曜日

各会議に係る議事等の検討、資料作成、会議開催に関する調整と周知及び議事録の作成を行いました。

2. 総括

昨年に引き続き、専門部会・運営会議・全体会議の3層構造に加え、主に相談支援機関で構成される定例会議を開催しました。昨年度、障害者差別解消法が求める差別解消支援地域協議会（逗子市障がい者差別解消支援地域協議会）の設立を行った権利擁護部会では意思決定支援を理解することで差別、虐待の防止につながる考えから意思決定支援について学ぶ機会を持ちました。今後は事務局である当事業所が委託主である逗子市に運営・議題についての専門的な意見を上げ協議内容を充実できるよう取り組みます。また、設置が急がれている地域生活支援拠点等設置についても地域課題と現存資源の状況を鑑みつつ協議の場を持ちます。

支援センター風：横須賀・三浦障害保健福祉圏域相談支援等ネットワーク形成事業（神奈川県委託）

1. 支援事業

神奈川県から受託した横須賀・三浦障害保健福祉圏域（横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町）における相談支援等のネットワークを形成し、圏域自立支援協議会の開催、障害者の地域生活支援の促進を図る事業です。受託3年を終えました。

圏域自立支援協議会	運営会議	相談支援ネットワーク会議	圏域事例検討会
7/20、2/8	6/21、10/23、1/17	7/24、11/28、1/25	6/15、8/24 11/2、2/22

相談支援ネットワーク会議では、各市町が設置する地域生活拠点等設置促進をテーマに3回に渡り検討しました。令和2年度末までに各市町に設置義務があるため、各市町の自立支援協議会に必要とされる拠点像の提議を目標にこれを達成しました。平成31年度も各市町の進捗報告を連絡会形式で実施します。

事例検討会は昨年度同様、圏域内市町村持回りで事例を提供し、事例のアセスメントに特化した手法で開催しました。また、神奈川県相談支援初任者研修の内容とリンクし、補完することのできる内容を付加しました。

2. 総括

昨年同様、担当職員は兼務3名で行い、受託3年目を終えました。これまで取り上げてきた移動支援、医療的ケア児者への地域生活支援、地域生活拠点等設置、どれも各市町の自立支援協議会やその他の協議体で検討されるようになりました。これまでの課題について各市町の自立支援協議会等へ出席し、進捗を確認するとともに、現在の課題である教育と福祉の連携について行動障害のある方の日中活動と住まいについて、ライフステージの変化による支援環境の変化について等、取り上げるべき課題が山積しているため各市町の自立支援協議会が認識している課題の中から共通性、優先性、広域性の高いものを取り上げていきます。

支援センター風：横須賀・三浦障害保健福祉圏域発達障害支援体制整備事業（神奈川県委託）

1. 支援事業

業務内容としては①地域の関係機関からの支援依頼に応じたコンサルテーション②支援困難ケース等はかながわA（神奈川県発達障害支援センター）との連携をコーディネート③圏域の発達障害に係る課題の抽出④検討機会の構築（地域連絡会の開催）です。

機関コンサルテーション	地域巡回	関係諸会議への参加機会
171 件(前年比+89 件)	161 件(前年比+103 件)	63 回(前年比+21 回)

※かながわ A 連携業務は関係諸会議への参加機会に集約されています。

2. 総括

受託以来、各支援業務は増加し続けています。これは事業開始から3年目を迎え、普及が拡大されたことによる機関コンサルテーションの増加や、2名配置(兼務)となり、児童から成人までの多分野の発達障害支援機関への巡回を重ねたことによる支援依頼が増加したことによるものと考えられます。

本年度は昨年度巡回することができなかった関係機関への巡回を行い、当圏域における課題の集約と全県的な検討会への課題の集約に取り組みます。

支援センター風：介護保険・居宅介護支援事業（神奈川県指定）

1. 支援事業

自宅において日常生活を営むために必要なサービスを利用できるよう居宅サービス計画を公正中立の立場で作成する介護保険法に基づいた事業です。平成30年4月の制度改正により指定権者が神奈川県より逗子市になりました。

①給付管理実績（ケアマネジャーは給付管理実績に基づき介護報酬を得ます。）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
管理数	36 (-3)	36 (-3)	34 (-4)	35 (-4)	36 (-3)	34 (-4)	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
管理数	34 (-5)	35 (-4)	35 (-2)	35 (-2)	33 (-5)	32 (-5)	415 (-45)

②その他

利用者の平均年齢は75.7歳(+0.1歳)、平均介護度は2.58(-0.06)でした。

障害福祉サービスを併用している方は15名でした。

2. 総括

給付管理件数は昨年比45件減少しました。入院入所等で利用終了者10名にのぼり、新規利用者が5名であったことが主な要因です。例年と同じく半数に近い方が障害福祉サービスを併用しており、さらに65歳以下（2号被保険者）の認知症等の発症による利用者も6名を数え、これまで以上に介護保険サービスと障害者福祉サービス双方の連携のもとケアマネジメントを進めました。

また、当法人通所施設の利用者の親のケアマネジメントを当事業所が受け持つケースが8世帯、介護相談に関わるケースが3世帯となり、利用者個々の支援を越え世帯への支援が不可欠になっている事から、潜在的な利用者を多く含む事業と考えられます。介護保険法の改正では地域包括ケアシステムの深化、推進が必須となっており医療との連携及び障害福祉サービスとの連携が一層求められています。さらに、事業の継続的運営については令和3年4月から主任介護支援専門員を管理者として配置することが必須となり後任の育成が今後の課題です。

支援センター風：各事業共通

1. 施設管理事業

各事業における事務の効率化のため、相談支援及び介護保険においてクラウドサービスを引き続き利用しました。

2. 施設整備事業

旧センターエアコンを事務室に移設し、就業環境の改善を行いました。屋根雨漏りの修繕、窓ガラスの修繕を行いました。

3. 研修事業

実施日	内容	参加者
5/9	ケアマネジメント適正化研修	染谷
5/23、6/15	精神保健福祉基礎研修	藤代
5/24、10/17	障害支援区分認定調査員研修①②	藤代、藤田
6/13	逗子市こども発達支援センター公開講座	萩原
6/13	発達に凸凹がある子が躓くとき	大野
6/11～12/20	相談支援専門員初任者研修	藤代・藤田
6/18～7/10	相談技術研修（全3回）	藤代
6/27、10/24、3/5	介護給付費適正化研修①②③	染谷
7/6	逗子市葉山町介護支援専門員新任現任研修	染谷
7/24～26 10/17～19	発達障害地域支援マネジャー基礎研修 発達障害地域支援マネジャー応用研修	藤代
7/25	精神保健福祉地域支援研修	宇賀神
7/26	強度行動障害支援者養成基礎研修	荒井
8/20	ゲートキーパー研修	鹿遊
9/13、14	強度行動障害支援者養成実践研修	荒井
9/21、9/28、10/31 12/3、12/11	発達障害支援センター 支援者向け研修③～⑦	藤代
10/3～5	巡回支援専門員研修会	藤代
11/1	脊髄小脳変性症と共に	稲木
11/7	障害者就労支援講座	萩原
11/14	在宅医療・介護連携研修会	染谷
11/20	鎌倉保健福祉事務所三崎センター保健衛生研修	宇賀神
11/22	傾聴力向上セミナー	吉原
11/23～24	医療的ケア児支援者養成研修	菊池・荒井
12/3	発達障害者の就労支援	吉原
12/8	ケアマネジメントスキルアップ研修	萩原・宇賀神
12/12	グリーンケア研修	萩原・大野
12/17	かながわ災害福祉広域支援ネットワーク研修	宇賀神
1/25	逗子市介護保険事業者管理者研修	染谷
1/30	障害者の就労支援について	鹿遊
2/7	ゲートキーパーフォローアップ研修	染谷
2/15	施設運営管理研修	吉原
2/20	地域ケア推進会議	染谷
2/21	かかりつけ医等発達障害者対応力向上研修	藤代
2/23～25	職場研修担当者研修	吉原・鹿遊
2/28	プレマネジャー研修	鹿遊
3/7	相談支援専門員専門コース別研修 権利擁護	宇賀神
3/20	逗葉医師会地域包括ケアシステム構築 多職種連携研修	染谷

4. 防災事業

①訓練

- ・支援センター風と合同で、火災避難訓練2回、津波避難訓練1回を行いました。
- ・防災備品の点検を行い、防災用品リストの更新及び非常食の追加購入をしました。

グループホームジャストサイズ（共同生活援助）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 27 名 女性 16 名
- ②年齢構成 23 歳～62 歳（平均年齢 44.7 歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	1	5	11	10	16	43

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	31	重複障がい（知的、精神）	0
重複障がい（知的、身体）	11	重複障がい（知的、身体、精神）	1
		合計	43

⑤入退所の状況

- 新規利用者 5 名
- 退所者 1 名

⑥支援の内容

非常勤職員の支援を常勤職員が定期的に巡回し、確認するという体制には至りませんでした。が、宿泊勤務者はおおむね各住居専任で勤務に就けるようになり、事故等の発生を少なくすることに繋がりました。

2. 施設管理事業

法令に基づき平成 31 年 9 月と平成 31 年 3 月に消防設備の点検を実施しました。また、平成 31 年 3 月に専門業者による各住居の清掃を行いました。

3. 施設整備事業

平成 30 年 4 月よりジャストサイズ小坪第 1 及び第 2 の運営を開始しました。

4. 研修事業

毎月開催している各住居の会議の中で支援に関する検討等を実施しました。ただし、継続的な実施が困難だったため、十分な成果に繋げるところまでは到達していません。

実施日	内 容	参加者
6 / 7	障害者グループホーム制度の理解 ～平成 30 年度改定の概要と今後の展望～	笹井
6 / 7、8	平成 30 年度初任者キャリアパス対応生涯研修課程管理者研修	鈴木
6 / 29	自閉症スペクトラムを中心とした発達障害の理解	辰仁
6 / 29	障害者グループホームにおける虐待防止	酒井
7 / 18	グループホーム職員のストレスマネジメント	三留・酒井
9 / 11	第三者評価推進機構	鈴木
10 / 5	応用行動分析学の基礎理論とその応用	笹井
12 / 17	施設職員災害対応研修会	鈴木
2 / 13	神奈川県グループホーム運営費補助事業説明	鈴木
3 / 1	平成 30 年度初任者キャリアパス対応生涯研修課程フォローアップ研修	西田
2 / 27	障がい者グループホーム運営支援事業（虐待防止及び人権擁護）	全職員
3 / 20	障害者グループホーム関連施策の動向	鈴木

5. 防災事業

- ①訓練 平成 30 年 8 月及び平成 31 年 3 月に避難訓練を実施しました。
- ②備品 既存の住居について保存水の入替えを行い、物品の補充を行いました。

6. 総括

ジャストサイズ小坪第1・第2の開設以降、通年で人員の確保を進めました。平成30年度は宿泊勤務者2名と日勤者3名を確保することができました。その一方で、宿泊勤務者3名の退職があり実質増とはなりません。募集方法の中で、業務内容を説明する「おしごと説明会」を3回開催し、結果として日勤者の確保に繋がりました。現状説明会の開催は人員の確保に有効であると思われることから、今後も継続して実施することを考えています。あわせて、宿泊勤務者の確保も急務であり、引き続き様々な媒体を利用して職員募集を進めます。

今年度2名の利用者のご家族が急逝されました。利用者の高齢化とともにご家族の高齢化も確実に進んでいることを実感させられました。今後の生活していく上で、ご本人の意思決定をどのように支援するかという大きな課題が見えています。一つの方策としてジャストサイズを含め関係機関との連携が始まっていますが、まだ具体的な形にまでは至っていません。本人の意思決定支援についての実践が求められています。

職員の育成について、かながわ福祉サービス振興会の障がい者グループホーム運営支援事業を利用した虐待防止及び人権擁護に関する研修を行いました。ただ単発での研修となってしまう、通年での全体研修までは計画することができませんでした。職員全員の底上げを目指すために継続的な研修の実施が必要となっています。

ジャストサイズ小坪／ジャストサイズ堀内（短期入所）

1. 支援事業

ジャストサイズ小坪

- ① 男女人数 男性 9名 女性 5名
- ② 年齢構成 21歳～53歳（平均年齢36.7歳）
- ③ 障害支援区分

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
人数	0	0	0	1	4	3	6	14

ジャストサイズ堀内

- ① 男女人数 男性 4名 女性 9名
- ② 年齢構成 19歳～51歳（平均年齢35.8歳）
- ③ 障害支援区分

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
人数	0	0	0	2	3	6	2	13

2. 総括

平成30年度4月のジャストサイズ小坪第1及び第2の開所により、小坪及び堀内で各2名の短期入所枠が設置されました。これにより、原則男女各一名の利用が可能となりました。当初はジャストサイズの新規入居者の状況を確認しながらサービス提供を始めましたが、6月からは通常利用で実施しています。当初それまで短期入所事業を利用していた方がホームへ入居されたこともあり稼働率は芳しくありませんでしたが、新規利用者も8名増え、現在は平日について70%ほどの利用となっています。引き続き新規利用者の調整を行いながら、緊急時の対応を考えた事業運営を模索していきます。

委員会

支援向上委員会（委員長：小林倫）

各事業所内で生ずる対応が困難なケースに対して、どこに要因があり、どのような方法で、また、どの場面に介入すると改善ができるのかという「問題（課題）整理の方法」を検証しました。その流れを①委員会で助言・提案を作成②各事業所の会議等で報告③各事業所で実践④委員会で実践結果の報告と検証という4つのサイクルで取り組む仕組み作りを行いました。

各事業所の支援に関する課題を明らかにし、各事業所の課題設定等に役立たせることを目的として各施設常勤職員を対象に「利用者に応じた個別支援プログラムに関する調査」を実施し、その結果を各施設へ公表しました。

次年度においても同様の取組みを継続し、法人職員全体の支援力向上を目指します。

安全衛生委員会（委員長：萩原崇至）

「感染症対策部会」と「労働安全衛生部会」の二部会制をとり、課題別に取り組みました。

感染症対策部会では、平成28年度に改訂した感染症ハンドブックの内容の確認と修正を行い、感染症ハンドブックを新たに改訂しました。

また、感染症情報の共有と感染症予防の啓発として、利用者・職員の感染症の罹患情報について毎月集約し、各管理者へ情報を提供しました。

労働安全衛生部会では、各事業所において5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の定着を目指し、委員が各事業所を訪問し、課題を集約し、改善指示を行いました。

メンタルヘルス対策として独立行政法人労働者健康福祉機構神奈川産業保健総合支援センターの永島直美氏を講師に迎え、常勤職員を対象にした研修を実施しました。

虐待防止委員会（委員長：松倉和則）

「虐待防止チェックリスト調査」と「虐待防止職員研修」を実施しました。虐待防止チェックリスト調査では、法人内における虐待発生リスクの把握として課題の抽出ができたと同時に、課題改善に向けた強みも確認することができました。また、法人全職員を対象とした職員研修では、和泉短期大学の鈴木敏彦教授を講師に迎え、障害者の虐待防止と意思決定支援をテーマに実施しました。利用者の理解を深める知識と観察力を身につけ、利用者の意思を汲み取る丁寧な関わりを実践することが、虐待防止の取組みそのものであることを学び、改めて日々の利用者支援の大切さを確認しました。

次年度においては、チェックリスト調査で抽出された課題への取組みと、虐待防止への意識向上と知識を深める研修企画により、引き続きの虐待発生ゼロを目指します。

コンプライアンス委員会（委員長：菊池一美）

昨年に引き続き、以下の3つの取組みを軸に据えて活動しました。

「職員行動強化月間」では年間計画を定め、事業所で設定した小さなルールを守ることで職員一人ひとりの行動から意識を変えることを目的に、事業所職員がルール作りに参画できるように取り組みました。

「職員研修」は、日本コンプライアンス推進協議会の塚脇氏を講師に迎え、コンプライアンスを取り巻く社会情勢から現場の業務改善に至るまでの講義を常勤職員対象として実施しました。

「委員の勉強会」として、障害福祉サービス事業所はどの事業所も行っている自己点検チェックシートとの項目と実務との繋がりについて学びました。本年度も以上3つの取組みを軸に各委員が事業所におけるコンプライアンス推進機能を果たすべく取り組みます。

湘南の風感謝デイ実行委員会（委員長：三留琢磨）

1. 日 時

平成 30 年 10 月 6 日（土）10 時～14 時

2. 場 所

湘南の風もやい全館、もやい駐車場、小坪コミュニティセンター、小坪区会天王浜駐車場

3. 利用者等動員状況

	利用者	職員	家族会	ボランティア	合計
計	16	75	18	35	139

※上記ボランティアについては個人、車イスの会、逗子開成中学、逗子市民生委員・児童委員協議会、逗子市社会福祉協議会ボランティアセンターの協力によるもの。

4. 共 催

社会福祉法人湘南の風 後援会

5. 後 援

逗子市社会福祉協議会、葉山町社会福祉協議会

6. 協 力

逗子市、葉山町、小坪区会 小坪商栄会、西町祭礼委員会、逗子市消防署、逗子市手をつなぐ育成会、葉山町手をつなぐ育成会、逗子開成高等学校、もやい家族会、えいむ家族会 葉山はばたき家族会、日本栄養給食、お祭り委員会（もやい、えいむ、葉山はばたき mai!えるしい、各事業所の利用者）

7. 来場者数

400 名（推定）